

理事長 所信

一般社団法人船井青年会議所

理事長 寺田 憲司

2023年度 スローガン

be a hero

～ 自らの無限の可能性を信じて ～

はじめに

1978年6月9日、この地域に明るい豊かなまちを作ろうと、熱い情熱と志を持った若き青年たちが集結し、園部青年会議所が誕生しました。そして、その想いをより広い地域へ拡大するために名称を船井青年会議所へ変更し、時々の時代で明るい未来を描きながら、強い使命感のもと創立より45年の歴史を歩んで参りました。そして、本年度は次の節目である創立50周年へ向け、一步目を踏み出す重要な年度と捉え、5年、10年先の中長期的なビジョンをしっかりと描きながら、一つひとつの行動に確かな意味を持たせ、活動を展開する必要があると私は考えております。

また、昨今の新型コロナウイルスによる先行きの見えない不透明な現状は、日本の社会全体に大きな混乱を起こし、人と人の繋がりを簡単に希薄化させてしまうなど、私たちの暮らしや社業、家業に於いても、今もなお決して少なくない影響を与えております。だからこそ、熱い情熱と志を抱いて活動を始められた諸先輩方のように、私たちはもう一度創始の理念を強く再燃させていくと共に、この船井の<sup>まち</sup>地域にとって必要とされる組織へ成長していかななくてはならないと確信しております。

「意志あるところに、道は開ける」・・・アメリカ合衆国 第16代 大統領リンカーンの言葉です。

何かを成そうと自らの意志で行動する者は、まさに幾多の障害をも乗り越え、自らの進むべき道をつくりだせるのではないのでしょうか。

どんなに苦しくても、上手いかわなくても、あきらめそうになっても熱い想いと強い意志を持って行動できれば、あなたは誰かの“hero” となれることでしょう。そして、様々な壁を乗り越えようと、必死でもがき、挑戦している仲間の姿は、きっと私の“hero”となるでしょう。自らの無限の可能性を信じ、未知なる世界へ果敢に挑戦し続けよう。未来を創るのは私たち“hero”だ！

## 基本方針

### 笑顔溢れる地域の未来を描ける“hero”を目指して

【 地域の未来創造特別委員会 】

子供の頃、年に一度の地域のお祭りや縁日は、どこかわくわくするような高揚感に包まれた楽しい日の思い出として、大人になった今でも鮮明に記憶として残っております。近年、少子高齢化や地方都市における人口減少が深刻な課題となっている現代、このような地域の身近な“楽しみの機会”がどんどん減っているように感じます。そして、このような現状が増えることは、加速的に地域から活気が失われ、人との交流も減っていくことで、どこか孤独感にも似たような印象がこの地域の住民へ広がっていくのではないかと私は危機感を抱いています。そして、このような楽しみの機会は、大人と子供を結ぶ貴重な場であったとも私は考えます。なぜならば、大人は子供たちへ地域の素晴らしさやその結びつきの大切さを伝えることで、子供たちからは、純粋な笑顔と歓声でまちを明るく活気づけること、これら双方の良さそれぞれが、地域のコミュニティーを形成してきたとも言えるのではないのでしょうか。

そして、これからの未来を考えたとき、私たちの生まれ育った船井の地域が、何か一つの形で繋り合える機会があることは、人々の絆が溢れる素晴らしい地域を生み出し、後世へ受け継がれることで、明るい豊かな社会を実現することへ繋がると私は確信しております。だからこそ、まずは笑顔溢れる未来を想像しながら、この地域の住民がわくわくできるような高揚感を私たちから波及させて参りましょう。

### 新時代を築き上げる“hero”を目指して

【 組織の未来創造特別委員会 】

90年代後半より、全国の青年会議所は会員減少の一途を辿っております。これは、私たち船井青年会議所も同様です。その理由も様々な要因が挙げられ、私たちも日々この課題を意識することで、直近では多くの新入会員を迎え入れることに繋がりました。これも一重に、会員一人ひとりが船井青年会議所の未来に対して、危機感と組織を変革していこうとする強い思いが一致した結果であると私は考えております。しかし、誰もが40歳で卒業となる青年会議所は、この運動を止めれば組織そのものが消滅するのは言うまでもありません。だからこそ、常に会員拡大を意欲的に実施していくことは勿論のことであり、同時に私たち船井青年会議所の持つ“良さや魅力、活動内容”をしっかりと対外に発信していくことこそ、持続可能な運動を展開していくことへ繋がるのではないかと考えます。新たな出会いは私たちの人生を彩るスパイスとなります。船井青年会議所

に所属したからこそ得られる特別な人生を想像しながら、意欲的に行動して参りましょう。組織と地域の新たな時代を創造できるのは、メンバー一人ひとりの行動力に掛かっています。共に手を携え、新たな仲間を迎え入れましょう。

また、近年では毎年日本のどこかで大規模な災害が発生しております。豪雨や台風、そして地震とあまりにも多くの災害が起こっており、起きる前提で対策を講じなくてはならないと考えます。ハザードマップや避難場所の確認は当然のことですが、何が手元になければならないのか、また、避難所では何が不便になるのかなどを考えて、事前に備えておく必要があると考えます。行政やボランティアが手を差し伸べることができるようになるには、災害後ある程度時間が必要になります。しかし、災害大国日本の中で、私たちには過去の教訓から得た情報が数多くあります。その教訓を振り返りこれからの防災とは何なのかを一人ひとりが考えることのできる機会を創出し、災害に強いまちづくりを目指すことで、防災・減災の意識を高めていくことが大切ではないでしょうか。災害に被災した時、今までの生活が一変します。必ず元どおりの暮らしに戻れる保証はありません。しかし、例え被災したとしても、普段からの備え一つで、その後の暮らしや復興に大きな影響が表れるはずでず。そして、私たちの活動の根源はまちづくり運動です。防災・減災の観点からも地域の人々が安心して住み暮らし続けられる未来をしっかりと描いて参りましょう。

## 組織を愛せる“hero”を目指して

【 総務情報発信委員会 】

青年会議所は会議が基盤となり、運動を生み出し地域へ展開しています。総会や理事会といった諸会議にはそれぞれの目的があり、その目的の達成や組織、会員にとって、より高い効果が得られるようにするためにも、規律ある組織運営が求められます。

組織に規律がなければ、様々なものに無駄が生まれ非効率化し、個々の意識の低下にも繋がり組織運営に支障をきたすと考えます。

また、私たちは地域をより良くするために様々な運動を続けておりますが、船井青年会議所がどのような組織で何を目的にどのような事業を行っているかを知らない住民も多く、認知度は低いのが現状です。そして、世界中にインターネットが張り巡らされ、ソーシャルメディアであるSNS等情報発信の手段が多様化していく中で、私たちはまだまだ戦略的に使いこなせていないのでしょうか。私たちの運動をより迅速に、かつ戦略的に住民の皆様に伝播していくためには、対象を明確にし、事業の内容やその目的を地域へ分かりやすく発信し共感を得るとともに、組織内外における連携をより強固にすることが必要であると私は考えます。

全メンバーが結束し常に最新の状態でより効果的に運動・活動ができる環境整備を実施していくことは、真に組織を愛せることへ繋がると確信致します。

## 未来のリーダーを育成する“hero”へ

【 会員研修委員会 】

船井青年会議所は、創立以来「明るい豊かな社会」の実現という理念のもと、常に運動を展開してまいりました。そして、次世代のリーダーたり得る若き青年が互いに切磋琢磨し修練を重ね、それぞれの社会で力を発揮してきました。即ち青年会議所とは、経済運動や社会運動だけではなく、次世代リーダー育成機関でもあると考えます。これからも、この概念は変えずに、次世代へ繋いでいかなければなりません。

昨今の新型コロナウイルス感染症が経済や社会に与えた影響は、私たちが働くメンバーの企業においても重大な問題となって、今もなお大きな影響が残っております。ニューノーマルという言葉に象徴されるように、時代は大きく変わり、以前の状態に戻ることはほぼ不可能とも言われております。しかしながら、青年経済人として、地域の更なる発展を目指す私たちは常に時代の変化に対応していかなくてはなりません。そのためには会員の資質向上をはかる実践の場を提供し、時代に即したリーダーを養成する必要があります。新たな時代だからこそ、大きな変化をチャンスと捉え、新たなリーダーを輩出するための能力の育成に努めて参りましょう。

時代が変わるとき、一人ひとりの行動は、やがて大きな運動へ繋がると私は確信します。

## まちの宝を輝かす“hero”を目指して

【 まちづくり委員会 】

未来を担う地域の人財である子どもたちは、まちにとってかけがえのない宝ではないでしょうか。そんな子どもたちが、船井の<sup>まち</sup>地域を故郷として大切に思い、笑顔を絶やさず元気いっぱい暮らしていける環境を、私たち大人は守り通さなければなりません。

昨今の新型コロナウイルスによる社会的距離の確保によって、学校行事や地域行事は縮小、延期又は中止に追い込まれるなど、本来様々な経験や体験をたくさん得られる時期に、少し前まで当たり前だったことができなくなり、子供たちだけでなく私たち大人もどこか虚しさや寂しさを感じている現状が伺えます。しかし、故郷を思う気持ちは、いつの時代も変わるものではなく、私達大人が真剣に子供たちと向き合い、“伝えたい、残したい”ことを形にすることで、両者の成長は相乗効果をもたらすと私は確信致します。

私たちの暮らす南丹市、京丹波町は豊かな自然環境と肥沃な土壌から作られる様々な作物や特産品が遥か昔より先人たちの手によって受け継がれ、現在では“京都丹波”ブランドとして全国で多くの人々に親しまれています。しかし、飽食の時代とも言われる現代、いつ、何時でも大体のものが手に入る便利な世の中になった一方、受け継がれた地域の良さや素晴らしさに目を向ける

と、時代を追うごとに希薄化しているように感じます。だからこそ、まずは地域に残る良さや素晴らしさを私たち自身が再確認し、地域が持つ無限の可能性をどこまでも追求し、地域へ、全国へその良さや素晴らしさを発信し続けられる運動を巻き起こしていこうではありませんか。

厳しくも可能性に溢れた未来をより良いものにするために、希望を持ち、「できない」ではなく果敢に挑戦する姿勢こそ、まちを良くしていく一歩であると考えます。

## 結びに

近年「JCしか無かった時代からJCもある時代へ」と言われることが多くなったように感じます。いつの間にか他団体に埋もれてしまったのでしょうか。私はそうは思いません。世界的にも、日本国内においても、多くの大統領や歴代総理、名立たる経営者を輩出してきた、唯一無二の学び舎です。先人たちの弛まぬ努力によって創られてきた不変の存在が青年会議所であり、先人たちが思い、夢描いた明るい豊かな社会の実現は私たちの使命です。自分たちの子どもの成長や将来に夢や希望を抱くのと同じで、私たちも先人の夢や希望を叶えられる存在でなくてはなりません。この想いはJCでしか繋がれない。だからこそいつの時代もJCしかないのです。

そして、この時間、場所で、誰かとの繋がりで出会えた“縁”は一生の宝物になると私は確信しております。しかし、出会っただけでは薄っぺらな、直ぐに壊れてしまう宝物となってしまいます。

あなたは誰の“hero”となりますか？私は誰の“hero”となりますか？

頑張っている人に光を示せるような、希望を与えてあげられるような存在へ、そして、無限に満ちた可能性の扉を共に開いて参りましょう。出会った仲間が創る地域の未来は、明るい未来しか私には想像できません。

## be a hero

一年後、船井青年会議所の誰もが真のheroになっています。